

## 20年度総会

## 豊口氏(昭和34年卒)が新会長に

平成二十年度同窓会通常総会は、八月十七日(日)午後二時より秋田市のシャインプラザ平安閣において開催された。県内外から約百二十名の会員が出席し、会は鈴木明夫氏(昭四十五年卒)の司会で進められ、新会長に豊口祐一氏(昭和三十四年卒)が承認される。副会長に三浦廣巳氏(昭和四十四年卒)が新任された。

最初に校歌五番まで斉唱。次いで物故会員に全員で黙祷を捧げた。次に次第に従って進められた総会の概要を記す。

◎山谷三二会長代行あいさつ

辻会長が七月五日に亡くなられ、今年の総会は私が会長代行として司会をしますが、まずは辻さんのご冥福をお祈りいたします。

出会いはいろいろありましたが、年一回旧制高校の寮歌祭というものが、私も世話役をやらせていただいていたお陰で辻さんの一橋の校歌や寮歌を三十年くらい聞いていました。あの通りの声です。

ごい声量でした。

そして平成十五年十月丸山会長の後任に辻さんが会長となつて四年と六か月、現役の経済人としてのお忙しさの中、同窓会長として全国、県内、秋田市内どこの同窓会にも万障繰り合わせて出席されていきました。また経済人である辻さんは同窓会の財政を大変心配されていきました。ことに平成七年に会則が変わり、全員会費制ということで財政基盤も安定してきてはいたもの、ここ数年前年度より会費を納める人が少しずつ減ってきていたところでした。けれども平成十九年度の会費納入率が前年度プラス相当増え、このことについては病床にあつて苦しかっただろう辻さん心から喜んでおられたように感じます。

昭和二十七年に同窓会長が同窓生から出るということになつて大体五十年になりましたが会長が現職のまま亡くなられたのは今回が初めてです。会長代行という例は一回あります。こんなわけで今日の総

会の運営等いろいろご意見ご不満もありませんがご理解の上、ご協力をお願いいたします。

## ◎菊谷一校長あいさつ

この四月から校長職に就いた秋高昭和四十四年卒菊谷一です。まずもって辻吉兵様のご冥福をお祈りいたします。辻様には昭和四十七年五月から五十四年五月まで七年間、本校第十六代PTA会長として様々なご意見やご提言をいただき、また今年の入学式では同窓会長として進学状況や部活動等に並々ならぬ期待を寄せておいででした。

学校の事情について申し上げます。

昨年の秋田国体には本校生十八名が出場し、天皇杯、皇后杯獲得に貢献しました。また、今年六月、県立北欧の森



で全国植樹祭があり、会場の設計に当たられた安藤忠雄氏が秋田に来られた際、本校で講演いただき、高校生対象の講演は稀ということでした。が貴重なお話を伺いました。

次に、昨年、小六と中三対象の全国学力テストが行われ、本県はすばらしい結果でしたが、逆に本県の高校教育が問われる形になりました。また、本県では少子化が速いスピードで進行しており毎年小中学校が数校ずつなくなつていて、だからこそ人材育成に取り組まなければならない、特に県を代表する本校ではとの思いを強くしているところです。

人事面については、今年から副校長制が設けられ、本校には知事公室総務課長であつた昭四十八年卒石井周悦氏を迎えました。具体的な仕事は今までの学校教育に欠けていたスピード・合理性・対外的交渉など教育環境の整備です。また県では本県の弱点とされる高校理科教科に知的刺激を注入しようと博士号所有者五名を採用し、本校にはブラックホール研究で博士号を持つ内田先生が配置されました。七月の秋高祭では全県の博士号所有者を集まってもらいシンポジウムを開催しました。更に今他県との教師の

人事交流が行われており、本校には盛岡一高の阿部先生がおいでになり刺激を受けているところです。

さて校舎の耐震診断の結果、昭和三十六年にできた大体育館の改修に着手することになりました。来年度完成予定でその後旧体育館を解体し二十二年三月の卒業式から使用する予定、これに伴いラグビー場確保のため剣道場を数メートル移動。また北棟も耐震工事のため改修工事に入ります。

長年本校は全校生徒十クラス千二百名でしたが、平成十二年から学級減となり、現在各学年八クラス九百四十二名ではほぼ四割が女子生徒です。また三年前に高校入試制度が大きく変わり、学区制が取り除かれ全県一区となりましたが、影響は少なく秋田市出身者が約八割です。またこの春の卒業生三百十八名の進路状況は、三百十七名の進学希望者の内、実際の進学者は国立大百三十、私立大六十七、私立短大二、残り百十八名が再挑戦です。現役では東大五、京大一、北大五、東北大二十三、一橋大三など。私立では早稲田八、慶応五、など。四十七都道府県比較で東大進学者は四十四位、東北大十一位で、東北六位以内に入つてお